2015～16 年度
国際ロータリー会長

K. R.ラビンドラン

Weekly Report Niigata

世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度　国際ロータリーのテーマ

2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長

竹石　松次

新潟 RC１２月第　４例会（2015.12.22）№3115

(1)　ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2)　竹石　松次　会長挨拶

平澤　興

明治三十三年（1900）～平成元年（1989）

新潟市南区味方生まれ。父、平太郎、母、チノの六男として誕生。当時の味方村の手違いで一年早く七穂小学校に入学、中学は父が勤めていた京都府庁の学校、京都市立平安中学に入学する。京都行きは、父の厳命で汽車を乗り継いで未だ列車の旅、未経験の興青年、否、少年の至難の一人旅であった。しかし、京都弁に馴染めず苦労の連続であった。学校では、赴任したばかりの英国人教師トーマス・カービ氏と親しくなり、当時珍しいコーヒーを毎晩頂いたほか、散歩に同行し英会話にも磨きがかかった。

大正六年、第四高等学校に入学、卒業時には学校始まって以来の最高点で卒業した秀才であった。

京都帝国大学医学部に入学した興青年は、一時ノイローゼになり、入学早々郷里に帰る帰郷事件があった。郷里に戻って雪の原野を歩いていると、原書で読破したベートーベンの伝記を思い出した。

「ベートーベンは、二十五歳の時に人生を終えようとしたことがある。音楽家にとって致命的ともいえる『耳』が聴こえなくなり、友人に始めて打ち明け、人生に絶望感に襲われました。その時『勇気を出せ、たとえ肉体にいかなる欠点があろうとも、我が魂はこれに打ち勝たねばならん・・・今年こそは、男一匹ほんものになる決定をせねばならん』こう日記に書いております」

この言葉を想起し、偉大な天才がこれほど悩んでいるのに、凡人の自分は何と努力不足かと考え直したことであった。

郷里から京都に戻った興青年は、生活方針をがらりと変更、就寝を午後十時、起床を午前二時とする方針を決め、半年間で原書の参考書を三千三百回にわたって読んだことで、展望が拓けてきた。

努力の人となった青年は、将来の進路について、脈を診る基礎医学か脈を診ない基礎医学かを決める際に、どうも自分は、あまり上手いことも言えないし、希望者も少ない『解剖学』を一生の仕事にすることを決断、研究さえ出来ればいいと決意する。

だが、卒業を控えた二十三歳の時に、父が希望する村医を断念し基礎医学に先行する方針を説明したことから、父の怒りを買い学資が断たれ、およそ半年間、自活のため中学で教鞭を執る状況に追い込まれた。紆余曲折はあったものの、京都帝国大学医学部を卒業、大学の解剖学教室に入局。二年後には郷里の新潟医科大学に助教授として赴任する。

翌年の昭和三年、留学することになり、スイス・チューリッヒ大学脳解剖学研究所に入学、留学生として第一歩を踏み出した。大学では、モナコフ教授から脳の標本製作で、きめ細かさを要求され、模写の重要性を徹底的に叩き込まれ、このことが医学追求の基本となった。

続いて、ミュンヘンのドイツ精神神経研究所、アメリカの研究所での研修を終え、帰国した。帰国した年に、教授に昇進、翌年、「日本人腕神経叢の研究」で医学博士となる。

論文の主旨は、解剖学領域における人類学研究は、従来骨が中心となっていたものを神経叢に拡大したもので、人が運動する際に下肢の筋肉（横紋筋）の収縮を、どのように連携させるかという「錐体外路〈すいたいがいろ〉」の働きによる神経が影響している。しかも、大脳皮質から指令されているもののほかに、四つの亜型があることを突き止め発表した。この発表は、昭和二十六年、日本学士院賞を受賞、昭和四十五年には、勲一等瑞宝章を受章する基となった。

新潟医科大学では、創立記念日に、沼垂のチュリップ園で大いに飲み、学生が予め用意した担架に乗せられて自宅に戻るなど、研究、活動は基より、学生との談笑でも闊達な一面を残している。

昭和二十一年、戦前、戦後の二十年間を新潟大学で過ごした後、再び京都大学に戻り研究や戦後の大学運営に尽力、昭和三十二年、第十六代京都大学総長に就任した。

就任の訓示では「学生諸君には、この若さを浪費しないように望みます。己に克たずして人に克つということは不可能であります。ベートーベンなども幾度も絶望の叫びを

あげているのです。」と、かつて自身が大学一年生の時に味わった苦い思い出を切々と語っている。
　昭和四十三年、名誉村民に選ばれる。
勲一等瑞宝章受章、日本医学会会頭、京都芸術短大学長、国際ロータリー京都地区ガバナー、関西新潟県人会会長、京都府文化賞特別功労賞受賞など数々の栄誉に輝いている。
昭和六十年、新潟市イタリア軒で新大医学部七十五周年記念講演が開かれ、
「地球は丸い、どこがへそになり、中心になってもよい。新潟が世界の文化の発信地となっても差し支えない」と述べている。
　平成元年六月、八十八歳の生涯を終えた。
　筆者は、晩年、上越教育大学で講演した際にインタビューを行い、教育の大切さで教示を得た。「あなたとは以前お会いした気がします。」という丁寧な一文を頂いた。
　数々の座右の銘が残されている。
　「努力　努力　又　努力」
　「本当に偉大だなと思う人には、
　　みな平凡さがある。
　　平凡を鍛えあげて、偉大にしている。
　　そう思うんです。」
　平成三年、「曽我・平澤記念館」がふるさとに建設された。

(3)　ビジターの紹介

(4)　委員会報告

・龍田社会奉仕委員よりロータリー保育園訪問について

本日11名で訪問予定です。15:00、保育園にご集合願います。

・NHK坂本局長より歳末助け合い募金ご協力御礼

62202円のご協力、ありがとうございました。

・玉親睦委員長より新年家族会(2016.1.19)のご案内

ご家族で来年、成人を迎える方がいたらお申し出ください。

(5)　同好会報告

・吉田料理研究会幹事

18日、9名で開催致しました。次回は手作り肉まん、あんまん予定です。

(6)　各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(小林　敬直委員長)

徳永　昭輝君

青少年育成基金寄付発表(小林　悟委員長)

高橋　清文君　　若杉　　武君

小林　　悟君

(7)　ニコニコボックス紹介(白勢　仁士委員長)

・坂井　賢一君　誕生日プレゼント・ワインありがとうございました。62才になりました。残りの人生悔いのないよう頑張ります。

・高橋　清文君　先日の初参加した料理教室の様子がスライドに写しだされましたので急遽ニコニコします。本当に楽しい会でありがとうございました。皆さん、お世話になりました。ちなみに当日は奥さんの手作りエプロンで参加でした！

・白勢　仁士君　今年一年間大変ありがとうございました。

(8)　会員スピーチ「昨今のホテル事情」

㈱イタリア軒　代表取締役社長　岡田　茂久君

(9)　１２月２２日例会の出席率　７６．８４　　％

会員数９８名（出席免除会員　９名）

出席者７３名（出席免除会員５名を含む）

（2 週間前メーク後　８５．１１　　%）

１月１２日の例会予定

会員スピーチ

ＢＳＮウェーブ代表取締役社長　近藤　正典君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

http://www.niigatarc.jp/